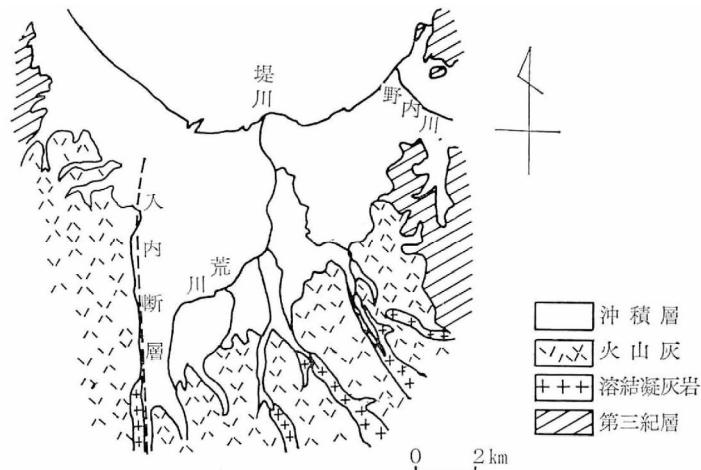


地形・地質

青森平野は北方を青森湾に面した低地帯です。平野の周辺部には扇状地性の低地
が広がり、河口付近の青森市街地およびその以北は三角洲性の低地となっています。
構成する地質は新第三紀層と八甲田火山噴出物です。

地下水

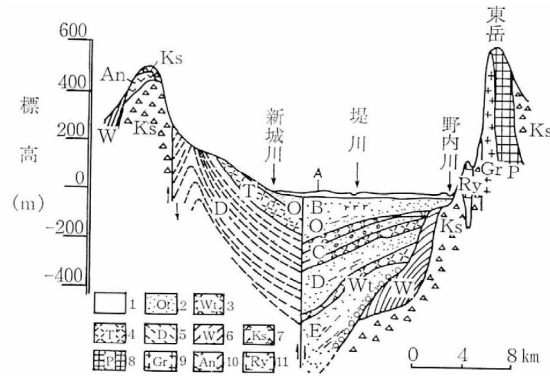
平野地下の第四紀層の層相は礫、砂、泥などで、A層からE層までの5層に区分
され、いずれも有望な帯水層になっています。



青森平野周辺の地質概要図

青森平野の地質層序表

地質時代	地層名	層相	分布深度および層厚	透水係数 cm/s
完 新 世	A 層	扇状地、後背湿地性堆積物よりなる。礫、砂、粘土の互層。市街地では上部に砂、下部で粘土、シルトとなる。野内川扇状地では砂礫よりなる。	厚さは最大 30~35 m に達する。	6.5×10^{-3}
	B 層	礫および砂礫が主体である。	海岸付近では東部で深度 50 m, 入内断層付近で 200 m となる。平野の南端では十数 m になる。	4.8×10^{-3}
更 新 世	第 1 溶結凝灰岩	比較的堅硬な凝灰岩		
	C 層	B層と類似した層相を示し全般的に礫層よりなる。ところにより、泥質となる。とくに海岸部では泥質部が厚い。	海岸部では東部で 90 m, 西部では約 300 m の深度まで分布する。平野の南部では 140 m, 海岸に向かって深くなり、最深部は 250 m である。	2.1×10^{-3}
	第 2 溶結凝灰岩	比較的堅硬な凝灰岩		
	D 層	全体的に細粒堆積物よりなる。海岸部では泥質部が多くなる。	海岸部では東部で 130 m, 西部で 375 m である。平野南部では 225 m, 海岸中央で 250 m の深度まで分布する。	$7.4 \sim 7.5 \times 10^{-3}$
	第 3 溶結凝灰岩	比較的堅硬な凝灰岩		
	E 層	全般的に粗粒な堆積物(礫、砂)よりなる。	海岸沿いの市街地では矢田前付近で 300 m, 入内断層付近で 1,000 m 以深まで分布する。平野南部では妙見付近で 525 m, 市街地では 560 m の深度まで分布する。	7.1×10^{-3}
第 4 溶結凝灰岩	比較的堅硬な凝灰岩			
第三紀	基盤岩	火山岩類	平野東部の山地から 20~45° の傾斜で地下にもぐり込み、入内断層付近では 860~1,000 m 以深に分布上限深度がある。	



- 1：沖積層 2：更新世岡町層 3：更新世田代平溶結凝灰岩
 4：第三紀鮮新世鶴ヶ坂層 5：第三紀鮮新世大釈迦層
 6：第三紀中新世和田川層 7：第三紀中新世金ヶ沢層 8：古生層
 9：花崗岩 10：安山岩 11：流紋岩 A～E：帯水層

青森平野の模式地質断面図

出典 日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

<http://www.jagh.jp/jp/g/activities/committee/research/gwdb.html>（日本地下水学会）